ふるさとの雑木林で想う～この都市の片隅に～

17 期　小島 敬

【1】二十四節気

『二十四節気』は中国の無形文化遺産だ。

2016 年 11 月、日本が推薦していた『山・鉾・屋台行事』(18 府県 33 件) がユネスコの無形文化遺産として登録された。能登の青柏祭の曳山行事を始め、石川、富山、岐阜、愛知、三重 5 県だけで 15 件を占め、連日、地元メディアはこの慶事を大きく取り上げた。この時、他の国の多くの案件も無形文化遺産に登録された。その一つが中国の推薦した『二十四節気 *(The Twenty-Four Solar Terms)*』だ。古代中国で発明された『二十四節気』は、太陽の 1 年の周期を基に作られた「光のカレンダー」だ。日本へは飛鳥時代に伝わったとされる。立春、春分、立夏、夏至、立秋、秋分、立冬、冬至などは馴染み深く、僕は日本古来のものと思い込んでいた。『二十四節気』は太陽の光量変化の区分なので、実際に気温が変わるには 1 ヶ月程度の遅れがある。寒のさなかに立春と言われてもピンとこないが、季節の到来を早めに察知して農作業の準備に入ることができるので、この「光のカレンダー」は日本でも重用されてきたのだろう。

名古屋の実家近くに広大な雑木林（相生山）がある。子供の頃はよく遊んだが、その後ほとんど立ち入ることはなかった。リタイアしてからこの雑木林を散策するようになって季節の微妙な移ろいを知り、『二十四節気』の意味合いがようやく分かりかけてきた。

春〔立春～穀雨〕(新暦　2 月～4 月)

雪国ほど春の訪れは顕著ではないが、日差しの変化で春の訪れを感じることが出来る。まさに「光の春」だ。3 月になると急に鳥が少なくなる。冬鳥が北へ帰っていくのだ。3 月も下旬となれば桜が咲き、草木の季節に移っていく。

夏〔立夏～大暑〕(5 月～7 月)

5 月は若葉がさわやかだ。紫色の藤の花が彩を添える。相生山には陸生のヒメボタルがあちこちにいて、5 月半ば、夜の雑木林を舞う。 都市部では、ここは日本を代表するヒメボタルの生息地のひとつだ。ホタルの季節が終わると夏草が猛烈な勢いで茂り始め、スズメバチが出没し、やぶ蚊が多くなる。散歩は落ち葉の季節までお預けだ。7 月にはいると蝉の初鳴きがある。昔はアブラゼミ、ニイニイゼミだったが、温暖化の影響かニイニイゼミは姿を消し今やクマゼミの大合唱だ。

留鳥のコゲラ〈キツツキ〉も時折、姿を見せる。

【コゲラ】

秋〔立秋～霜降〕(8 月～10 月)

お盆を過ぎると暑さが和らぎ、蝉もいつの間にかいなくなる。10 月になると、雑木林の大半を占めるコナラが色づく。どんぐりに、落葉〈コナラ〉と常緑〈アラカシ〉の 2 種類あることを、この年齢になるまで知らなかった。

冬〔立冬～大寒〕(11 月～1 月)

冬枯れの雑木林は美しい。冬は鳥を見る季節だ。オオタカも目撃されるようになる。ジョウビタキやツグミ、シロハラなどの冬鳥たちが北方からやってくる。（相生山ではツグミを狙った違法なカスミ網猟が 1960 年代まで行われていた。）ギフチョウの食草であるカンアオイの自生地がいくつもあり、11 月、ものすごく地味な花を咲かせる。そして季節は巡り、春を迎える。

【2】ふるさとの雑木林は防空緑地

名古屋の地形は西が平らで東が丘で、丘は象が西を向いたような形をしている。額の部分に名古屋城。長く垂れた鼻に熱田神宮があり、先端部に東海道五十三次の「熱田宿（宮の宿）」がある。NHK『*ブラタモリ*』(6 月放送) でタモリと近江友里恵アナが歩いたのはこの熱田台地だ。象の後ろ足やお尻はそのまま東部の尾張丘陵へと連なっている。ふるさとの雑木林がある相生山は名古屋市南東部にあり、象の後ろ足を支える台座だ。

1940 年、「防空法」により相生山は防空緑地に指定された。当時、相生山の東側は雑木林がなだらかに続き、三方には田んぼや畑、小川、ため池

など里山の風景が広がっていた。1960年代の開発ラッシュで、周辺の雑木林や田畑はすべて大規模団地や住宅地になってしまったが、緑地指定が解除されなかったおかげで相生山の自然は奇跡的に守られた。都市公園として整備される予定だが、用地買収は進まず、大半が雑木林のままだ。大きな台形をした相生山は、面積123.7ha（金沢大学角間キャンパス：200ha）、最高地点62m、地下鉄が通る幹線道路との比高差50m。外周をゆっくり歩くと2時間近くかかる。雑木林にはタヌキが棲み野鳥も多い。相生山は西へゆるやかに傾斜しており、西端からは名古屋市が一望できる。市街地の向こうには鈴鹿山脈、養老山地、伊吹山。目を北に転じれば御嶽山が望める。

時計を巻き戻し、戦中と戦後占領期の名古屋を相生山から見てみよう。

【３】米軍の空爆（1944年～1945年）

B29による空爆は1944年12月に始まった。名古屋は日本の航空機産業の一大拠点として、東京に次ぐ大規模な空爆が行なわれた。市内の主な目標は、三菱重工名古屋航空機製作所、三菱重工名古屋発動機製作所、愛知航空機・愛知時計電機、名古屋陸軍造兵廠。各軍需工場では、多くの動員学徒や徴用工が働いていた。宮崎駿監督のアニメ映画『*風立ちぬ*』（2013年）の舞台となったのは港区の三菱重工名古屋航空機製作所だ。ここに堀越二郎がいてゼロ戦が設計・組み立てられていた。

焼夷弾による無差別空爆

日本への空爆で使用されたM69焼夷弾は六角形の筒型（長さ50cm、直径8cm）。重さ2.5kg。この焼夷弾がE46クラスター弾に38個収納されて高度600mで散開し、豪雨のように降り注いだ。

米軍の空爆の事前調査は徹底していた。鉄を多用した工場へは爆弾を、木と紙でできた住宅には焼夷弾を使った。橋の材質も調べ上げ、鉄やコンクリート製の橋へは爆弾を、木製の橋へは焼夷弾を投下し、逃げ惑う人々の退路を断ち、更に容赦なく焼夷弾の雨を降らせた。「防空法」に基づく防空体制や隣組の避難訓練がなんの役にも立たないことを人々は思い知らされた。家を焼き払い市民を殺し尽くす空爆で、名古屋の中心部は焦土と化した。疎開による転出で人口は半減した。〔134万人（1944年）→60万人（1945年11月）〕

1945年5月の空爆で名古屋城は全焼した。なごや人はこれで名古屋も終わりだと思い、敗戦を覚悟したことだろう。米軍の空爆で、本丸御殿を始め名古屋にあった国宝（名古屋東照宮、名古屋最大の長福寺など）の大半が焼失した。無差別空爆は郊外の田園地帯にも及んだ。1945年6月、実家のある村（百数十戸）を狙って焼夷弾が投下され、23戸が全焼した。祖父母は屋根に上がって必死に火を消したという。祖父母の話から、フランシス・コッポラ監督の映画『*地獄の黙示録*』（1979年）を思い出した。ワーグナー「ワルキューレの騎行」の曲をバックに、ベトナムの農村地帯を米軍の武装ヘリが次々と攻撃していくのだ。

祖母が存命だったころ、防空頭巾が古い箪笥の奥から出てきた。捨てようとしたら、祖母から「また使う時が来るかもしれんで、捨てたらいかんがね！」と言われ、捨てるに捨てられず今に至る。

爆弾池と爆弾穴

相生山とその周辺には焼夷弾だけでなく爆弾も投下された。南わずか1kmのところに住友金属の軍需工場があったので、とばっちりで爆弾が落ちたのかもしれない。防空壕に避難しても、直撃すればひとたまりもない。

戦後、「爆弾池」と呼ばれる直径10mの見事に円形の池が、田んぼの中に点在していた。1トン爆弾でできた池だと言われていた。小学生の頃、友達と魚釣りをしてよく遊んだが、すり鉢状の池の為、大人たちから絶対に池に入るなと教わった。この「爆弾池」は1960年代の宅地開発で水田と共に姿を消したが「爆弾穴」は今も残っている。相生山には9ヶ所の「爆弾穴」が確認されており、内1ヶ所（直径10m、深さ2m）には案内板も設置されている。

【爆弾穴（右に案内板）】

【４】占領期（1945 年～1952 年）

名古屋は中部地方で唯一米軍が駐留した（第 25 師団司令部が置かれた）都市で、ピーク時の 1945 年 12 月、米兵の数は 3 万 2000 を超えた。市内で二百数十か所に及ぶ建物が接収されて星条旗が翻り、“JAP Off Limits”（日本人立ち入り禁止）となった。旧日本軍の司令部や基地、三菱などの軍需工場、官公庁の建物、さらには、将校用に民間の住宅まで接収された。大学病院も米軍に接収され、重症者を含むすべての患者が即時退去を命じられた。街には英語が氾濫した。道路標識に始まり、役所、学校、銀行、会社の建物から寺や神社に至るまで、英語表記が押し付けられたのだ。名古屋市内の様相は米軍の占領で一変した。

アメリカ村（1946 年～1958 年）

1946 年、中心部の白川地区に「アメリカ村（米軍の家族住宅 130 戸）」が出現した。材木一本、釘一本調達するのも大変な時に、米軍の命令で３週間の突貫工事で作らされたという。緑の芝庭のある白い板壁の家が等間隔で建ち並ぶそこはMPが巡回する別世界だ。「アメリカ村」の鉄条網の外にはバラックが乱立し、飢えた人々が米軍の残飯をあさっていた。2 万 5 千分 1 地形図「名古屋南部」（1947 年修正測図）には白川地区が「アメリカ村」と記載されている。大阪ミナミより 20 年以上も前に「アメリカ村」があったのだ。返還されたのは占領が終わって実に 6 年後の 1958 年だった。今は、科学館と美術館のある緑豊かな「白川公園」として、市民の憩いの場となっている。

オキュパイド・ジャパン（1947 年～1952 年）

日本の貿易が再開されたのは 1947 年だ。しかし GHQ により、日本製品には”Made in Occupied Japan（占領下日本製）”という表示が義務付けられた。実家近くの住友金属の軍需工場は洋食器工場に生まれ変わり、”Occupied Japan”が量産された。名古屋や瀬戸で大量に作られた磁器やノベルティが海を渡り、貴重な外貨を稼いだ。海外向けなので国内に出回ることはなかったが、叔父が洋食器工場に勤めていたので、我が家にもこの刻印の食器がある。米国にはコレクターが多い。将棋の藤井聡太四段で有名になった瀬戸市にある美術館では、今年貿易再開 70 周年を記念し、米国からの里帰り展『戦後の復興を支えたやきもの　Made in Occupied Japan』が開催された。

【洋皿裏の刻印（OCCUPIED JAPAN）】

アリスちゃんと「チエちゃん」

1950 年代、相生山の雑木林に隠れるようにして小さな掘立小屋があり、日本人の母親と娘のアリスちゃんが住んでいた。手元に実家で撮った１枚の写真がある。僕の姉や近所の女の子たちが仲良く並ぶ真ん中に、アリスちゃんが笑顔で立っている。明らかに黒人との混血とわかる褐色の肌をした少女だ。姉と年齢も近く家にもよく遊びに来ていたが、ある日突然いなくなった。掘立小屋は、もぬけの殻だった。その後名古屋市内でアリスちゃんを見かけることはなかった。

井上陽水のアルバム『*氷の世界*』（1973 年）の中に「チエちゃん」という曲がある。ざっくりとこんな内容だ。“飛行機に乗って誰にもさよならを言わずに、見送られることもなく、消えてしまった。”　“さみしくなったら向こうの浜辺で水着になり太陽に見せつけてやれ。言葉の壁を越えて、向こうにもやさしい人はいるはずだ。”

歌を聞いて、この「チエちゃん」はアリスちゃんのことだと確信した。占領期に何千人と生まれたアリスちゃんの歌だ。アリスちゃんがアメリカに渡り、幸せに暮らしていることを願う。

戦後 72 年たち、ふるさとの雑木林もずいぶん変わった。戦争の爪痕は、爆弾穴を除いては何もない。夕方の散歩を終え、雑木林を抜けて台地の西端に立つと、鈴鹿の山並みに太陽が沈んでゆく。明日も穏やかな日でありますように。